

## 「中国・浙江大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学法学部3年 仲野早紀

今回の浙江大学スプリングスクールでの私の一番の成果は、中国語学習を今後もずっと続ける明確な理由を見つけれられたことである。スプリングスクールに参加する以前は、ただ中国語が好きというだけで学習を漫然と続けており、中国語を勉強するなかでのやりがいや目標を持つことができていなかった。私はこの語学研修に参加して、現在のような良好とは言えない日中関係の中でも日本に対して非常に友好的な中国人にたくさん出会った。これらの人々が、これからも中国語学習を続けてもっとスムーズに意思疎通を図れるようになりたいと思わせてくれたのである。

中国人学生の中には、日本人である私たちよりも日本文化に詳しい人もいた。特に一昔前の日本の名曲や人気ドラマを好んで鑑賞している人が多く、真に価値のあるものは世代、国境を越えて残っていくのだと実感した。また関西弁からテレビ局の業界用語まで日本語をマスターしている人もおり、隅々まで日本を知りたいという思いが伝わってきて嬉しかった。今度は自分が中国に興味を持っていると感じてもらえるよう中国語の学習に励みたいと思う。

大学での生活は、1週目は毎日授業後にイベントが入っており、忙しくも充実していた。2週目は授業後が自由時間となっている日もあり、実際に語学留学するとどのくらい空き時間が取れるのかを体感できてよかったと思う。授業に関しては、日本人として普段から漢字を使っているため、読解については他国の長期留学生に然程後れをとっていると感じることはなかったが、会話や作文についてはかなり差をつけられていると痛感した。よく聞いていると声調よりも発音を重視してテンポよく話そうとしている留学生が多く、声調が多少違っていても十分コミュニケーションをとれていることに気付いた。私は今まで発音も声調も完璧に正しく話そうとして失敗することが多かったのだが、声調は間違えても仕方ないと割り切り少し力を抜いて話すのもノンネイティブなりの一つのやり方だと学んだ。

学外での活動としては寺院や史跡などの見学を行った。中国の寺院は敷地面積も仏像も驚くほどスケールの大きなものだった。ただ、日本の寺院と比べ保存状態の良くないものや近年再築されたものが多いのが少し残念だった。また、一部の史跡では入場の際学生証を見せても学割が利かないことがあり、外国人に不寛容な一面もまだ残っていると感じた。だが、メンバーの一人がタクシー内にスマートフォンを置き忘れ困り果てていたところ、近くにいた別の運転手が人脈をたどって探し出してくれたという出来事があり、反日的な風潮の中でも温かい人はいるものだと教えられた。

2週間という短い期間だったが、このスプリングスクールの中で様々な考えを持った様々な国の人に出会った。「〇〇人だから」と一括りにはできないと感じる場面も多々あった。相手の国の背景も踏まえつつ、それに捉われ過ぎないで一人の人間として接すると、相手の真の姿が見えてくるというのが私の考えだ。卒業後は公務に携わりたいと考えているが、どのような母体に所属している人でも、個人としての姿を持っているということをお忘れずに、公平な視点を持って働くことのできる人間になりたいと思う。